■Result\_Predictionについて，

**「Result」シート**：

評価結果[-2, -1, 0, 1, 2]を，0 ～1に変換

「むなしさ」の評価をニューラルネットSDNNを用いて推定した結果

予測値と評定値の相関係数は0.49と今一つ

**「個人ごとに正規化」シート**：

データを，個人ごとに平均0.5，標準偏差0.2で正規化したうえで推定した結果

予測値と評定値の相関係数は0.48と大して変わらなかった

**「写真ごとに推定」シート**：

写真ごとの評価をSDNNにより推定した結果

こちらも，相関係数は0.41とあまり高くはない

**「写真ごとに推定（個人ごとに正規化）」シート**：

データを個人ごとに正規化したうえで推定した結果

相関係数は0.433とあまり変わらない

■予測結果2について，

**「SDNN」シート**：

どの変数が重要な役割を果たしたかを分析

赤いセルが重要な変数のペアを示す．

下に，重要な変数ペアの順位が示されています．

（このうち10ペアを抜き出し予想した結果が「上位10ペア」シート．以下同様．）

変数ごとの重要性はN列に順位で示しています．

→最も重要な変数が「安心な」，ついで「新しい」

■回帰分析について，

**「線形回帰」シート**：

切片とそれぞれの変数の係数がO列からX列の2行目にあります．

相関係数は0.624とSDNN予測より高く，線形回帰の方があてはまりが良さそう．

変数4「新しい」と変数9「安心な」の係数が大きい．

**「2変数の線形回帰」シート**：

2変数だけでも相関係数は0.61

**「残差予測結果」シート**：

2変数で予測した値と正解との差（残差）をSDNNで予測した結果ですが，ほぼ予測できません．つまり，「新しい」と「安心な」で予測した残りにはほぼ何も情報が含まれていないと言えます．